NIEもっけ ワークシート ㉚

下野新聞

中学生向け

年　組

「終活」「婚活」幅広く浸透

19年度、国語世論調査

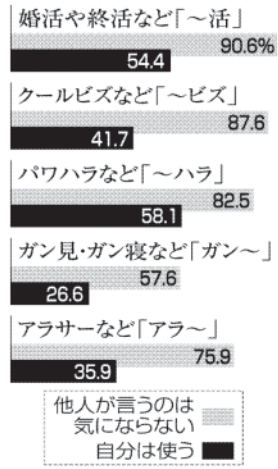
就活や婚活など「活動」を略す「～活」との表現が、若者から高齢者までの幅広い世代で浸透していることが25日、文化庁の2019年度国語に関する世論調査で分かった。慣用句を本来の意味で捉えていたのは、「敷居が高い」「浮足立つ」で３割に届かなかった。

「敷居高い」「浮足立つ」意味理解 ３割未満

新しい表現を他人が言うのは気になるかを聞いたところ、「～活」は90・6％が「気にならない」と回答。70代以上でも80・0％が許容した。人生の終わりに備える「終活」や、流行のタピオカ飲料を楽しむ「タピ活」など応用範囲が広く、文化庁の担当者は「世代に関係なく、多くの人がなじんでいる」と分析している。

パワハラやセクハラの「～ハラ」は82・5％、クールビズなどの「～ビズ」は87・6％、アラサーのように年齢の前後を意味する「アラ～」は75・9％が違和感を抱いていなかった。

A まじまじ見るを表す「ガン見」など強調で使う「ガン～」は57・6％にとどまった。



新表現を「自分は使う」とした人は、最多の「～ハラ」で58・1％にとどまり、いずれの表現も許容する割合より大幅に少なかった。「ガン～」は26・6％だったが、20代では66・2％、10代は77・3％に上った。

慣用句では、「敷居が高い」を本来の意味の「相手に不義理をして行きにくい」と答えたのは29・0％で、56・4％が「高級すぎたり上品すぎたりして入りにくい」を選んだ。「浮足立つ」は、本来の「B［　　］」が26・1％だったのに対し、「C［　　］」が60・1％だった。

「前に負けた相手に勝つこと」を表現する際にどちらを使うか尋ねた設問では、「雪辱を［D］」が50・5％。全ての年代で、本来の「雪辱を［E］」を上回った。

改定で新たに加わった常用漢字の印象では、「隠蔽」や「憂鬱」で「読みにくいのでふりがなを付けるのが望ましい」とした人が前回09年度調査より減った。担当者は「最近の報道でよく見るからだろう」としている。

調査は今年2～3月に実施し、全国の1994人が回答した。

（2020年９月26日付・下野新聞４面）

記事は加工しています

設　問

【1】Aに入る適切な語句を選びましょう。
①一方で　②だから　③例えば　④つまり

【2】BとCには次のア・イのどちらが当てはまるでしょうか。
ア喜びや期待でそわそわしている　イ恐れや不安でそわそわしている

【3】DとEには次のア・イのどちらが当てはまるでしょうか。
ア晴らす　イ果たす

【4】「終活」「タピ活」のように「～活」の形の新しい語を、あなたのオリジナルで作ってみましょう。

【5】文化庁の「国語に関する世論調査」（2019年度）では他にもさまざまな表現が取り上げられています。以下の表現はその１例です。これらについても調べてみましょう。
①「よく分かるように丁寧に説明すること」を何と言うでしょうか。正しい表現はどちらかを調べて、正しい方を選びましょう。
Aかんで含むように　Bかんで含めるように

②「手をこまねく」とはどういう意味でしょうか。意味を調べて、さらに例文を作ってみましょう。

出題・監修は宇河地区中学校教育研究会国語部会・小嶋陽介（こじまようすけ）宇都宮市陽西中教諭